

英語教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	第二言語習得理論をもとにした豊富なインプット授業実践		
日時	令和7年8月6日(水)		
会場	北広島市立東部中学校		
講師	増渕 真紀子 氏 明星大学非常勤講師、東京都公立小学校英語専科講師、NIJIN アカデミー英語講師		
参加者	41名		
研修会 の 様子		講師の増渕先生は、小学校英語専科講師として、小学校で教壇に立つ傍ら、明星大学で教員養成に努めるだけでなく、NIJIN アカデミーで不登校支援も行っています。様々なご経験をされた先生の英語の授業での意識されていることを理論というエビデンスとともに、それを活かした活動をご紹介いただきました。	
		はじめに、言語習得理論についての説明がありました。acquisition(習得)と learning(学習)の違いについてお話しされたのち、規則動詞と不規則動詞の過去形変化を例に、児童生徒に習得と学習のそれぞれの良さを取り入れた指導方法の重要性について論じていただきました。質の良いinputの重要性和 intake(学習者自身の気づき)の必要性を強調されていました。	
		続いて、増渕先生が実際に小学校で指導されている指導法についてご紹介いただきました。「コンテキストありき」「コミュニケーションの中で」指導する implicit knowledge に意識を置き、単語指導一つにとってもただ教えるのではなく、文脈の中で指導することやそれを使う場面を理解した上での活用する方法を教えていただきました。また、質の高い input を実現するために structured input activity を実践していただきました。	
		研修の後半では、focus on form の実践として dictogloss や information gap の活動を教師が生徒役になりながら体験することができました。増渕先生に理論を説明していただいたうえで実際に体験することができたので、子どもたちの気持ちや効果がわかり、非常に有効であったとの声が多かったです。質疑応答の際にも、たくさんの質問があり、参加者が興味をもって参加することができた研修会となったことが何え、充実の時間となりました。	